

前回の振り返り

議事の内容について

名 称	予定	内 容
第 1 回緑政審議会	令和 8 年 2 月 1 0 日	1 報告事項（緑の現況について等） 2 柏市の緑について
第 2 回緑政審議会	令和 8 年 5 月 1 2 日	1 緑の配置方針について 2 基本理念・将来像について 3 ワークショップについて
第 3 回緑政審議会	令和 8 年 8 月頃	1 目指す姿の実現のための施策及び指標設定について 2 次期計画の改定案（パブコメ案）について
計画素案完成	令和 8 年 9 月頃	パブリックコメントの計画素案
パブリックコメント	令和 8 年 1 0 月頃	パブリックコメントの実施
第 4 回緑政審議会	令和 8 年 1 2 月頃	1 パブリックコメントの結果について 2 次期計画(案)について

本資料は、前回の審議会における委員皆様のご意見を整理したもの。
不足等がありましたら、改めてご意見をお願いいたします。

頂いた主な意見について、以下の2つに分類いたしました。

柏のみどり

1. 公園の再生と管理
2. 柏駅周辺のみどり
3. 市民参画
4. こどもとみどり
5. 民有地における緑地
6. みどりに関する情報

緑の基本計画

1. 社会課題・他分野との連携
2. 計画策定過程へのこどもの参画や
計画書の見せ方
3. 施策の指標と推進体制

「柏のみどり」について

1.公園の再生と管理

寺田委員・柳井委員・鈴木委員・平林委員・松清委員・泉水委員（名簿順）

● 現状の課題認識

- 公園の利用について、**ルールが分かりにくく**、こどもが自由に遊べる場として十分に機能していない。
- 緑によるライフスタイルの充実には、生活に最も**身近な街区公園の老朽化が課題**である。
- 公園施設が老朽化しており、遊具以外の施設について、**計画的に更新が進められていない**。

● 何をすべきか

1.公園運営の改善

利用ルールを分かりやすく、明確に明示し、こどもが自由に遊べる場を確保すべき。

2.地域特性に応じた公園再生

居心地のよい公園づくりや街区公園の再生を進めるべき。

3.計画的な更新

老朽化した施設は、データに基づいた計画的な更新を進めるべき。

身近な公園を再生し、市民の「ライフスタイルの充実」を図るべき。

2. 柏駅周辺のみどり

落合委員・寺田委員・柳井委員（名簿順）

● 現状の課題認識

- 柏駅前には、**緑のオープンスペースがなく**、緑の拠点として位置づけすべき。
- 駅周辺の高度に発展した**都市空間**と、東側・南側の**田園的地域とのバランス**をどう取るかが、重要な方向性となる。
- 拠点の位置付けや対応方針を見直し、民間企業へのインセンティブ設計や認証制度を通じて質の高い**緑を確保する仕組みを整える**べき。

● 何をすべきか

1. 緑の拠点をつくる

地域の特性とバランスを考慮しつつ、柏駅周辺に緑を創出し、多くの市民が緑の効果（都市の魅力向上、ヒートアイランドの緩和など環境改善など）を感じられるようにしていくべき。

2. 緑化の仕組みを構築する

公共だけでなく、民間企業による質の高い緑を創出に向けた、インセンティブ設計や認証制度など、誘導する仕組みを整えるべき。

**民間の力も活かして、「柏駅周辺における緑の創出」を進めるべき。
一律的な緑ではなく、各地域の緑の特性とバランスを考慮すべき。**

3.市民参画

柳井委員・鈴木委員・平林委員・松清委員・三好委員・泉水委員（名簿順）

● 現状の課題認識

- 市民の園芸ニーズは高い一方で、**緑に関わる活動の場や機会が不足**している。特に20～40代など関心層はいるが、活動参加へ十分に結びついていない。
- 地域性やライフスタイルといった**背景に応じたアプローチ（団体や参加の仕組など）が必要**である。
- **自然との長期的な関わり**や**「自分ごと」**としての機会が不足している。

● 何をすべきか

1.場と機会の創出

日常生活の中で、各々のライフスタイルに応じて、誰もが気軽に参加できる仕組みや日常的な緑との接点を設けるし、市民の関心を参加や担い手育成につなげるべき。

生活スタイルにあった花や緑への「市民の関わる機会」を増やしていくべき。

4. こどもと緑

平林委員・松清委員・三好委員・泉水委員（名簿順）

● 現状の課題認識

- こどもが自然に触れる機会が十分ではなく、**将来の「緑への関心」につながる体験が不足**している。

● 何をすべきか

1. 自然体験の充実

こどもが自然に触れられる活動や、親子・若い世代向けのイベントを充実させるべき。

こどもが日常的に「自然に触れる環境」を整っていくべき。

5.民有地における緑地

寺田委員・柳井委員・松清委員（名簿順）

● 現状の課題認識

- ・ 民有地（樹林地・農地）の維持の負担の大きさや担い手の減少に加え、その**実態や意義が市民と十分に共有されていない**。
- ・ 緑の減少や土地利用の変化に対して、**コンパクトシティ政策や緑地保全における方向性や優先順位が不明確**である。
- ・ 緑の拠点の再整理や喪失への対応として、**開発に伴う緑化のあり方の検討が必要**である。

● 何をすべきか

1.意識の共有と担い手の確保

民有林の意義や維持の大変さを市民と共有し、担い手育成や参加の仕組みを構築すべき。

2.拠点の緑の位置付けの再検討

長期的視点に立ち、拠点の緑の位置付けと優先的に守るべき緑地を客観的に選定するべき。

3.緑地の活用と保全策

民有地の活用・保全策を検討するとともに、緑の拠点の開発時における対応施策を検討すべき。

緑地の意義を市民と共有しつつ、その「保全や活用の方向性」を整理すべき。

6.緑に関する情報

寺田委員・鈴木委員・松清委員・三好委員（名簿順）

● 現状の課題認識

- ・手賀沼など、**自然のポテンシャルが多く存在しているが、それに気づいている市民は少ない。**
- ・市内で緑に関する情報や映像が**目に触れる機会があると、「柏は緑が多い」というイメージづくりにつながる。**
- ・カシニワ制度も含め、**良い制度があるのに活用が進んでいない。**

● 何をすべきか

1.まちの情報発信の強化

自然のポテンシャルや緑の魅力に市民が気付けるよう、多方面からのアプローチや情報発信を強化すべき。

2.制度を知る機会の拡大

市内で緑に関する情報を得られる機会を増やし、制度の認知度向上と活用促進につなげるべき。

「柏市は、緑豊かな魅力的な都市である」ことを認識する機会を増やすべき。

「緑の基本計画」について

1.社会課題・他分野との連携

柳井委員（名簿順）

● 委員意見

- 10年先を見据えた視点を整理して反映すべき。
- 緑だけでなく社会課題への対応や他分野との連携といった「まちづくりとの関係性」を重視することが重要である。



● 計画の方向性

- 10年先を見据え、計画を検討する。
- 緑がまちづくりにどのように寄与するかという観点から整理する。

2.計画策定過程へのこどもの参画や計画書の見せ方

寺田委員・三好委員・松清委員（名簿順）

● 委員意見

- ・ 緑の基本計画に、**こどもの意見を反映**する仕組みを検討すべき。
- ・ 市民の行動変容につながるような、**緑の基本計画の見せ方**が必要である。



● 計画の方向性

- ・ こどもの意見を集める**機会を設ける**。（別途説明）
- ・ 市民が、緑の基本計画を手にとって読んでもらえるよう、**計画書の見せ方の工夫を行う**。

3. 施策の指標と推進体制

落合委員・柳井委員・鈴木委員（名簿順）

● 委員意見

- 数値目標よりも、**進捗確認の仕組み**と**推進体制の明確化**が重要である。
- 面積ベースの指標は時代に合わないため、「1人当たりの身近な緑に触れる時間」など**新しい指標の検討が望まれる**。



● 計画の方向性

- 次期計画における施策の指標は、「**進捗を確認する指標（アウトプット）**」と「**市民の体験やウェルビーイングに直結する新たな指標（アウトカム）**」を設定する。なお、現指標である1人当たりの緑量は、参考指標として目標を設けない、その変化を観測する指標として位置付ける。
- 施策の進捗を管理し、その都度、ローリングを図る**推進体制について、計画に明記**する。